



2025

学校だより **本荘** *Smile*

令和7年度 第34号
令和7年12月22日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

6年生の修学旅行その1 修学旅行って何のためにあるのでしょうか。平和学習の意味は？



10月16日、17日は6年生の修学旅行でした。私にとって、本荘小に赴任以来5回目の修学旅行です。私が、現6年生と出会ったときは1年生から進級したばかりのかわいい2年生でしたから、その成長ぶりには感慨深いものがあるのです。先に言っておきますが、すばらしい修学旅行でした(笑)。写真は、平和公園での1枚です。保護者の方々も、ここで記念撮影をした記憶があるに違いありません。その昔から、熊本の学校は、ほぼ長崎に修学旅行に行っております。

そもそも修学旅行って何のための行事、いや、学びなのでしょう。修学旅行の主な目的は、集団行動の訓練と社会性の育成です。普段の学校生活とは異なる環境で、時間やルールを守り、責任をもって行動する規律や、集団生活における協力や協調性を学びます。また、「見聞を広める」ことにも意義があります。歴史的・文化的遺産や自然、産業施設などを実際に訪れることで、座学では得られない深い知識や理解を得て、知的好奇心を育てるのです。さらには、人間関係を深めるということも大切です。5年生の時の集団宿泊も同じですが、先生や友だちと寝食を共にすることで、いつもとは違う面を発見したり、日常よりもよりよい友達関係をつくったりするよい機会にもなります。いままで、そこまでなかよしではなかったこともたちが急になかよくなったりします。(裏面に続きます)

だから、修学旅行は楽しいのです。

熊本県、市の場合、修学旅行はレクリエーショナルなものだけではなく学習面の要素も重視されてきた歴史があります。それが平和学習です。残念ながら、私が6年生だった50年近く前は、今の小学校ほど、ちゃんとした勉強をしていなかったように思います。6年担任や校長、教頭を経験してきた今だからこそ、こどもの頃からしっかりと勉強しておきたかったなあと思う今日この頃です。熊本県内の小中学校や高等学校が実施する修学旅行には、以下のような特徴や行き先が多く見られます。具体的な目的地は学校や年度によって異なりますが、一般的な傾向としてご紹介しておきますね。

熊本県の多くの学校では、多様な学習要素を取り入れるため、九州管内の主要な都市や歴史的な地域を先行の候補として挙げる人が多いと聞きます。特に熊本市内の小学校では、毎年、長崎を訪れています。原爆資料館や平和公園を訪れ、被爆の事実に触れる平和学習は、多くの学校で取り組まれています。熊本市から地理的に近いことも理由です。中学校になると沖縄や広島が主な先行先です。平和について深く考える機会とされます。

逆に県外からは、次のような場所が人気です。まずは阿蘇地域。世界有数のカルデラを持つ阿蘇山や大草原での自然体験学習（乗馬体験など）が人気だそうです。また、復興が進む熊本城を見学し、歴史や文化財への理解と災害対応について学ぶという旅程の県も多いようです。水俣市は、環境学習の先進地として有名ですので、水俣病資料館などを訪れ、公害の歴史と環境保全について学ぶ県外の学校も多いです。このように、修学旅行は、子どもたちが学校という枠を超えて成長できる、貴重な学習機会となっています。

6年生の修学旅行は、「学びを修める」修学旅行らしくしっかりとした学びの旅となっていました。事前の平和学習や長崎についての調べ学習も大変よく準備がなされていました。真面目な6年生ならではの修学旅行です。初日は、新幹線での移動や平和学習、平和の呼びかけ、ハードスケジュールの一日でした。何よりも原爆の被害者となってしまった、語り部の方のお話を聞くという学びを深める時間、絵本「嘉代子桜」の舞台となった城山小学校の見学、路面電車での移動、バスでの移動（次の日はフェリーも使いますので、ほぼ、すべての公共の交通機関を利用）本当に学びを深めることができた第1日目でした。ホテルでの過ごし方、食事のとり方、なんでも合格点の6年生でした。

（校長）

校長先生の虫眼鏡 「修学旅行の楽しみ。それはお食事」

修学旅行先の楽しみは、みんなと一緒に食べるお食事です。すごく豪華な食事で、みんなお腹いっぱい食べていました。

